

平成29年度第1回(栄養学・薬学・医学・歯学・看護学)分野連携グループ合同会議議事概要
(栄養学・薬学・医学・歯学)教育FD/ICT活用研究委員会
CCC看護学グループ運営委員会

- I. 日時 : 平成29年8月28日(月) 18:30~20:30
- II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 7階 琴平
- III. 出席者 : 栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 武藤委員長、市丸委員、原島委員、石崎委員
薬学教育FD/ICT活用研究委員会 黒澤委員長、齊藤委員、西村委員、大谷委員、
大嶋委員、松野委員、徳山委員
医学教育FD/ICT活用研究委員会 内山委員長、山本委員、藤倉委員、
渡辺委員(スカイプ参加)
歯学教育FD/ICT活用研究委員会 神原委員長、片岡委員、藤井委員、奥村委員
森實委員
CCC看護学グループ運営委員会 仲井委員、中山委員、梶井委員
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 委員紹介

スカイプ参加の渡辺委員はじめ5分野の出席委員から自己紹介が行われた。

VI. 報告・検討の概要

1. 事務局より、昨年度報告及び今年度の対話集会開催計画案の進め方について以下の報告説明を行った。

(1) 平成28年度の事業報告

平成28年度は、30分野を7グループに編成し複数分野が連携する対話集会を目指し、分野が連携する中で知識を組み合わせ新しい発想を育成する分野横断型のアクティブ・ラーニングの必要性を提案したが、否定的な意見はないものの参加者の多くは個別授業でのアクティブ・ラーニングに留まっており、分野横断型の学びの仕組みについて深く議論するまでには至らなかった。

また、ディプロマポリシーを実現する教学マネジメントとしての学位プログラムへの理解についても授業内容可視化の理解に留まり、授業科目の調整・統合など踏み込んだ議論が見られなかった。

(2) 今年度の事業計画(分野連携対話集会の進め方)

アクティブ・ラーニングの取り組みは進みつつあるが、大半は「講義との組み合わせ」による「知識の定着・確認」であり、対話集会における関心は個別授業における教育・学修方法の工夫・改善にICTをどのように活用して「学力の3要素」の向上を図るかである。

分野横断型の学びについては、医療系・法律系・会計分野での詳細モデルの報告を受けて改めて理解の共有を進める。学修到達度の質保障にICT活用が期待されていることから分野別外部評価モデルの検討および、学位プログラムへの転換促進には教員相互で授業情報を共有する中で議論できることが必要なことから、本年度は以下の視点を中心に5分野連携による対話集会を展開することにする。

- ICTを活用した教育改善の在り方の探究
個別授業における工夫・改善を図るため、学生が身につけるべき学力の3要素の向上・発展に効果的な「教育改善モデル」や、ICTを活用した「教育改善の実践事例」を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求する。
- 外部評価試験と教育の質保障
私情協が提案している口頭試問等によるICTを活用した外部評価試験の必要性和大学連携コンソーシアムの仕組みについての理解の共有と、教育の質保障を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開する。

- ・ 学位プログラムへの転換と授業科目の相互改善に結びつける仕組み
授業の可視化、学修成果の可視化など授業情報の共有と、e シラバス、e ポートフォリオ活用など授業科目の相互改善に結びつける仕組みについて理解を深める。

(3) 対話集会の進め方

今年度は昨年度より 30 分増やし、話題提供 1 時間半、意見交換 2 時間の 3 時間半で開催する。
話題提供として資料③にある以下の項目(*)も参考に本日の合同会議で検討して欲しい。

- * ICT を活用した「学力の 3 要素」を高める教育改善モデル
 - * ICT を活用した大人数の双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業などの実践事例
 - * モバイルを活用したアクティブ・ラーニング
 - * ICT を活用したアクティブ・ラーニング達成度の測定方法
 - * e シラバス、e ポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化
 - * 授業改善をオープンに議論するポータルサイトの活用など
- 実践事例は、各分野における事例を提案して欲しい。

(4) 意見交流について

話題提供の内容を踏まえ、資料③に例として挙げた以下の項目(※)も参考に検討して欲しい。

- ※ 「学力の 3 要素」を高める ICT 活用教育又は双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業の ICT 活用の効果と課題
- ※ ICT による外部評価試験システムの必要性
- ※ 授業科目の相互改善を促進するオープンな議論の必要性と ICT 活用

意見交流の活性化のため、今年度は教員だけでなく職員や必要に応じて学生の参加を検討する。
「ICT による外部評価試験システムの必要性」については、第 2 回合同会議で検討を行い、意見交流において私情協から説明を行うことを考えている。
活発な意見交流のため参加者全員や学生に発言を求め、参加教員には課題認識の共有化と、気づきの働きかけを行いたい。

(5) スケジュール

第 1 回合同会議 (8 月)

- ・ 話題提供候補の検討
- ・ 意見交流のテーマ検討
- ・ ICT による外部評価試験システムの必要性の検討
- ・ 対話集会の開催日時・場所の検討

第 2 回合同会議 (10 月)

- ・ 開催要項の確定
- ・ 話題提供者の確定
- ・ 意見交流のテーマ確定
- ・ 開催日時・場所の決定
- ・ 運営シナリオの検討と役割分担

対話集会 (12 月)

以上の説明後、各分野ごとに「教育改善モデル」「実践事例」「話題提供」等について検討を行った。

話題提供候補の検討

座長の黒澤委員から検討結果を求め、話題提供候補について各分野ごとに下記の報告がなされた。

医学：

仮題「ICT活用による分野横断型の教育改善モデル」
(日本医科大学 藤倉委員)

- ・「医学教育における教育改善モデル2」をベースに分野連携の学びについて更新モデルを提案
- ・各大学の多様な分野の学生が混成チームとなり、ネットを活用しWeb上で合流、課題に取り組む
- ・多職種連携、分野横断型の学びは大学側のニーズ(特に単科大学では必須のニーズ)

歯学：

仮題「ICT活用による歯学医療分野における多職種間の連携・協力」
(昭和大学 片岡委員)

- ・歯学教育における教育改善モデルをベースにした更新モデル提案
- ・社会のニーズ(健康)に応える教育は歯学だけでは出来ず、多職種連携が必要
- ・健康という大きな課題に向き合うには、専門別教育に慣れている教員には困難が伴うため、多分野の学生を集め、他分野の学生と交わることで自分の専門分野についての自覚を促し、学修させることが必要ではないか

看護学：

仮題「eポートフォリオの活用による教育改善モデルの実践的提案」
(東京慈恵会医科大学 梶井委員)

- ・eポートフォリオを活用し、学生が学修成果を認識することによる主体的学修と教員連携の実践的な取り組み
- ・6年間の実践事例

栄養学：

仮題「ICT活用による栄養マネジメント学修の教育改善モデル」
(福山大学 石崎由美子委員)

- ・「栄養学教育における教育改善モデル2」を踏まえ、今こそ必要な栄養マネジメント学修の教育改善モデルの提案

薬学：

仮題「基礎学力を再確認するためのPBL支援システム」
(近畿大学 松野純男委員)

- ・先駆的な名城大学の薬物治療学における取り組み(26年度対話集会発表)を踏まえ、基礎学力を重視した統合型PBL支援システムの実践発表。
- ・学生に基礎分野の問題を作成・発表させ、学生同士が学び合うことで主体性や知識の活用を養わせる教育システム

本日取り上げられた話題提供候補については、次回までに個別分野において内容を詰めていただき、メモの形で提出いただくこととなった。

3. 意見交換のテーマ検討

意見交換のテーマについては、次回話題提供の絞り込みと併せ検討する。

4. 対話集会の開催日時、場所についてほか

5分野の委員に諮った結果

- ・対話集会は1月21日(日)14時～17時30分 (委員事前打合せは13時)
- ・会場は、帝京平成大学 中野キャンパスを予定することとなった。

次回(第2回合同会議)は、10月23日(月)18:00～20:00 私学会館にて開催することとなった。